

徳島県立川島中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○ICTを活用した、主体的・対話的で深い学びのある授業の実践
○6年間を見通した計画的・継続的な中高一貫教育の推進

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
教諭 浦上 愛	教頭:前田綾博 社会科主任:三橋博之 国語科主任:笠井大輔 理科・教務主任:片岡弘己 数学科主任:谷本晴花 英語科主任:板東照美

校長

石丸 憲治

【小中連携または中高連携における共通の取組】

ICT(タブレット・電子黒板・デジタル教科書)を活用した、主体的・対話的で深い学びのある授業に取り組む。

【各校の取組状況の把握について】

中高合同の授業見学や学習状況調査など、さまざまな機会を捉え、取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各教員が至誠ノートの指導を丁寧に行うことで、生徒が生活習慣や学習習慣を見直す機会が増えてきている。 ●基礎的・基本的な知識・技能は定着しつつあるが、自分で復習する習慣が身に付いていない生徒がいる。	・目標(定期考査など)に向けて自分で学習計画を立てられ、見直しをもって学習に取り組むことができる。 ・日々の授業に意欲的に取り組み、基礎・基本を確実に身に付けている。 ・自分自身で復習する習慣を身に付けている。	・中高合同の授業見学や研究協議を深め、6年間を見通しがもてるよう指導計画を見直す。 ・定期考査前の「質問タイム」と後の「補充学習」の内容を工夫し、充実させる。 ・生徒1人1台タブレットを活用し、自主・自律的な家庭での復習や振り返りを継続的に進めよう指導する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各教室の電子黒板や生徒1人1台端末の活用が始まり、生徒がICTを利用した学習に慣れつつある。 ●基礎的・基本的な知識・技能は習得しているが、それらを活用できず、課題の解決につなげられない生徒がいる。	・ICTを活用して、互いの考えを共有したり他者と協働したりしながら課題に取り組むことができる。 ・自分自身で考え、その考えや意見を言語化し、仲間に伝えることができる。	・小単元ごとにICTを活用して、互いの考えを共有する場面を設定する。また、他者と意見を交わし、自分の考えを深めたり修正したりする場面の設定や、自ら思考・判断したくなるようなアウトプット型の課題設定に取り組む。 ・生徒の個性や特性を生かしながら、安心して自己表現できる学級づくりや授業づくりをする。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○「電子黒板を活用した授業では、以前よりも楽しく学習することができた」と思う生徒が約93%であった。 ●学習に対して受け身な生徒も多く、見直しをもって主体的に学習に取り組むことに課題がある。	・個々の生活経験や学習経験を生かすとともに、1人1台端末を活用して、学習の補充や予習など主体的に取り組むことができる。 ・先輩に学び、自分の将来の姿を想像し、未来を切り開く力を身に付けている。	・昨年度の英語に加え、理科においても学習者用デジタル教科書を活用し、生徒の学ぶ意欲を高めるとともに、その成果に基づいて教職員の指導力向上を図る。 ・長期休業中において、タブレットを活用し、生徒の日常生活や将来の夢につながった、自ら調べたい課題をもうけ、自律的な探究活動に発展させる。 ・「SA」や「先輩から学ぶ」、また、中高合同の行事等を積極的に活用し、触れ合える場を増やす。			

令和4年度 学力向上ロードマップ

